

第7回 蓄電池産業戦略推進会議 議事概要

日時：2026年4月17日（金）14時00分～16時00分

場所：Web 会議

議事要旨

「資料3：蓄電池産業を取り巻く環境の変化」を事務局より説明。「資料4：蓄電池技術産業化のための基盤研究拠点の強化」を産業技術総合研究所より説明。「資料5：「公共調達・重要インフラ向け蓄電池システムの安全ガイドライン」について」を製品評価技術基盤機構より説明。「資料6：「公共調達・重要インフラ向け蓄電池システムの安全ガイドライン」を用いた製品認証について」を電気安全環境研究所より説明。

1. 国内基盤拡充のための政策パッケージ

- 市場環境が不透明な時にこそ、サプライチェーン強靱化や人材育成等、来るべき将来に備えた準備が必要。部素材や製造設備の競争力を強化することも重要。
- 日本が技術力と信頼性で優位性を発揮しうる高付加価値分野の市場獲得が重要。高付加価値化と一体で事業基盤を構築する方向性は合理的。
- 蓄電池産業のさらなる強化には、セル単体の性能追求にとどまらず、システム全体を含むソリューションとしての提供が重要。
- 蓄電システムとして国際競争をリードできる環境を整えることが、国内産業基盤の強靱化とエネルギー安全保障につながる。

2. グローバルアライアンスとグローバルスタンダードの戦略的形成

- 産業技術総合研究所の人材基盤強化を推進する観点から、海外研究機関や企業に産業技術総合研究所の設備を開放する等の取組も検討いただきたい。

3. 上流資源の確保

- 蓄電池の原料確保は一つの大きなテーマであり、レアアースやレアメタルの安定確保が長期的な課題。
- 多用途化による需要予測の困難化、蓄電池関連の輸出管理の強化、最低価格や備蓄制度の提案等により、上流資源のサプライチェーンがより複雑化するなかで、日本が関係するプロジェクトを注視している。
- カーボンニュートラル達成に向けて電動化が重要であることは変わらず、車載用蓄電池の需要拡大に備えて国際競争力を担保できるサプライチェーン構築に協力したい。

4. 次世代技術の開発

- 産業技術総合研究所の基盤研究拠点のプランは素晴らしいが、実現のための設備投資、人材、研究費等の予算を確保して、他の研究機関とも協力して進めていただきたい。
- 文部科学省予算でも電池関連で多くの研究開発に取り組んでおり、日本全体として考えて上手く活用いただきたい。

○蓄電池需要の多様化に伴い、産業技術総合研究所や大学が保有する様々な電池技術の蓄積を生かせる機会が出てくる。アカデミアとも連携して取り組んでいきたい。

5. 国内市場の創出

○サプライチェーンの強化に向けては、中小企業が多いため、企業群としてしっかり守っていくことが経済安保の観点からも重要。

○「公共調達・重要インフラ向け蓄電池システムの安全ガイドライン」は、電池の安全性が市場で適切に評価されるための参照基準となるものとして期待。公共調達や重要インフラに限らず高い安全性を求める本ガイドラインによる認証を受けることを誘導する方向性を打ち出してほしい。

○日本が強みとする安全性が適切に評価されることが重要であり、国内の産業経済に資することを踏まえた補助金にすべき。

6. 人材育成・確保の強化

○蓄電池はあらゆるところに横断的に必要であり、多様な分野の人材育成を結集させて幅広く育てていく観点が重要。

7. 国内の環境整備強化

○JEMA が 2022 年に立ち上げたワーキンググループを、安全性やリサイクル等の様々な検討課題に対応するため、2026 年 4 月に委員会に改組。様々な団体と連携して、様々な課題解決に取り組んでいきたい。